

東京2020大会がもたらした価値

東京オリンピック

(7月23日～8月8日・33競技339種目)

過去最多と並ぶ**205**の国・地域と難民選手団
 合わせて選手約**1万1,000**人が参加

世界新記録が**26**個誕生

(2016年リオ大会25個を上回る水準)

性的マイノリティー（**LGBTQ**）であることを明かして参加する選手の数が、

過去最多の**182**人に(2016年リオ大会の3倍)

過去最多の**総メダル58**個を獲得

(これまでの最多は2016年リオ大会の41個)

東京パラリンピック

(8月24日～9月5日・22競技539種目)

リオ大会を上回る**162**の国・地域と難民選手団
 合わせて選手約**4,400**人が参加(選手数過去最多)

世界新記録が**157**個誕生

(パラリンピック新記録も299個誕生)

過去最多の**28**人に(2016年リオ大会の2倍)

過去**2番目**の**総メダル51**個を獲得

(過去最多は2004年アテネ大会の52個)

世界中から
アスリートが参加高いパフォーマンスを
発揮史上最も多様性
あふれる大会日本選手団の
活躍

コロナによって分断された世界を、スポーツの力で一つにした大会

安全・安心な大会開催

アスリート
大会関係者
の陽性状況

空港検疫検査
(7/1~9/6)

大会前

大会前の
陽性率想定：0.2%

実績

陽性率：0.10%
54人(陽性者数)/54,236件以上(検査数)

スクリーニング
検査
(7/1~9/6)

繁華街等の
スクリーニング
陽性率：0.1%

陽性率：0.03%
312人(陽性者数)/1,017,190件(検査数)
(うち訪日大会関係者164人)

アスリート
大会関係者
の療養状況

都内医療機関
(入院)

大会前の想定
(ピーク時)：8.5人

入院者数(ピーク時)：2人
(訪日大会関係者)
※ 都内医療機関は大会指定病院へ入院

都内宿泊療養施設

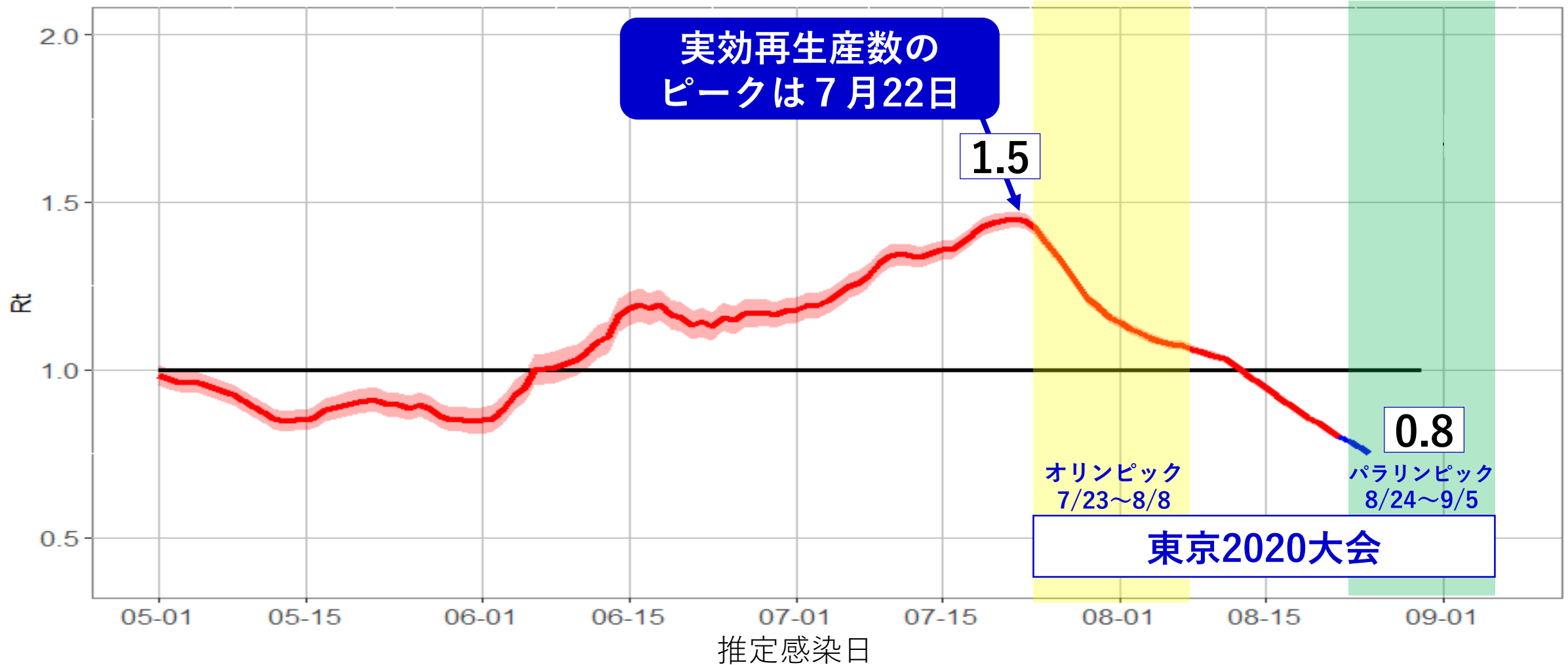
大会前の想定
(ピーク時)：44.6人

入所者数(ピーク時)：49人
(訪日大会関係者)
※ 大会用に組織委が300室を準備
余剰の部屋は都民用として活用

海外からのアスリート・大会関係者の陽性率等は当初想定を下回る水準

安全・安心な大会開催

実効再生産数の推移（厚生労働省アドバイザリーボード（9月8日会議資料）より）



東京の実効再生産数は7月22日をピークに下落傾向へ